

1 題材名 お話しよう、伝えよう

2 題材について

(1) 学習者について

本児は2名とも構音障がいのある第1学年の児童である。今年度から週2時間通級による指導を受けている。4月当初の言語検査により、以下の状況が見られたため、構音器官の機能を高める練習により、正しい構音ができるようにするための素地を作ってきた。

A児は、キ・キャ行、ギ・ギャ行、リ・リャ行の側音化構音（側舌化）とラ行の省略がみられた。カ行の構音操作に必要な奥舌の機能を強化するため、うがいや、舌の正中溝に沿ってストローを置き、奥舌から息を入れる練習等を行った。1学期は「イ」や「ヒ」の構音練習を中心に行い、正しい舌の形や息の出し方を覚えてきた。

B児は、サ・ザ行、シャ・ジャ行、チャ行、タ・ダ行、ナ行、「ツ」、ヤ行、ラ行での歯間化構音がみられた。キ・キャ行、ギ・ギャ行では、前につく音によって歯間化構音が見られることがあった。食事のときにあまり噛まず、口を開けていることが多いことから、噛む活動を取り入れ、顎を動かす筋肉の動きを調整する機能を高めた。また、舌尖を下歯裏に触れさせて[s:]を舌の正中溝から出すストロー吹き練習も行い、構音器官や構音操作に対する意識も高めた。

2名はともに、指導開始時からことばの教室での学習に対してとても意欲的で、通級による指導を楽しみにしており、練習も集中して行っている。しかし、話をよく聞いていなかったり、ボーっとしていたりすることがあり、次の行動にすぐに移れないことがある。「特別支援学校教育要領解説 自立活動編・第6章自立活動の内容」に照らして、2名の実態を整理すると、「1 健康の保持（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」、「6 コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること」の2項目が、共通して当てはまる指導内容であることが把握できる。自分の障がい音の特性を知ること、相手の話や発音をよく聞くこと、自分の思いを分かりやすく伝えること等が共通の指導目標になると考える。

(2) 題材について

本児2名とも、ことばの教室では自分のことや家族のことなど、たくさんおしゃべりをする。学級でも大きな声で音読をしたり、手を挙げて発言したりする。学習に対する意欲はとてもある反面、相手の話をよく聞いていないことがある。そこで、ペア学習により、よく聞かないと答えられないようなクイズやカルタ遊びを通して最後まで話を聞く姿勢を育てていく。また、相手に伝わるように話をしたり相手のよさを見つけたりすることにより、人前で話すことに慣れ、自信へとつなげていく。

(3) 指導にあたって

この題材では、個別に行う構音指導や発音指導と並行してコミュニケーション活動を重点的に行うペア学習を入れながら指導していく。

「つかむ」段階では、動機付けとしてペアでカルタ遊び等を行うことにより、「一緒に楽しく学習したい」「友達によく伝わるように話をしたい」「友達の話をもっと聞きたい」という意欲をもたせる。

「きく・あらかず」段階では、自分とは違う練習の様子を見て、友達のよさやがんばりを見つけたり、クイズを出し合って相手の話をよく聞く活動をしたりしていく。その際、相手の発音を聞き分けたり、自分の発音を振り返ったりして、正誤弁別の力を養えるような場を設定する。

「いかす」段階では、「きく・あらかず」段階で行った音読やゲームにおいて確認した、最後まで話を聞くことの大切さについて触れながら、学級でも最後まで話を聞いたりたくさん発言したりしたいという意欲を持たせて、活動のまとめや次時の予告をする。

3 題材の指導目標及び評価基準

観点	指導目標	評価基準
関心・意欲	課題音を意識しながら、意欲的に活動に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手のよさに目を向けながら、意欲的に活動に取り組もうとしている。 誤り音に気付き、自分で言い直しをしている。
話す・発音 (あらわす)	正しい構音方法が分かり、正しく発音することができる。	(A 児) 舌全体を広げて、盛り上げずに「キ」の発音をしている。 (B 児) 舌を下前歯裏につけて、サ行音を発音している。
聞く (きく)	担当や友達、自分の発音を注意して聞き、正誤を聞き分けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 担当や相手、自分の発音を注意深く聞き、課題音の他者弁別をしている。
コミュニケーションスキル	活動内容を理解し、場面に合わせて会話を楽しむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 会話やゲーム中、適切に応答したり、振り返りを自分の言葉で話したりしている。

4 題材の指導計画 (6時間)

指導過程	主な学習活動	評価基準
第1次 見通しをもつ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 相手の課題音を知る。 学習のゴールを知り、見通しをもつ。 機能を高める練習をする。 	【関】 <ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもち、進んで取り組もうとしている。
第2次 発音に気をつけながら、ゲームをする (4時間) 【本時4/4】	<ul style="list-style-type: none"> 機能を高める練習や母音練習をする。 自分の課題音に気をつけて、構音練習や発音練習をする。 カルタ取りやすごろくをする。 スリーヒントクイズを出し合い、相手の発音のよさを見つけたりクイズを楽しんだりする。 	【発】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題音が正しく構音できる。 【聞】 <ul style="list-style-type: none"> 相手が話し終わるまで聞いている。 【コ】 <ul style="list-style-type: none"> よかったことを自分の言葉で相手に伝えようとしている。
第3次 まとめをする (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 機能を高める練習や母音練習をする。 教科書の音読をし、相手の発音のよさを見つける。 ペア学習のまとめをする。 	【聞】 <ul style="list-style-type: none"> 相手の発音を注意深く最後まで聞くことができる。 【コ】 <ul style="list-style-type: none"> 相手の発音のよさやペア学習のよさを見つける。

5 本時の学習指導

- (1) 目標 相手の発音のよさを見つけ、伝えることができる。
 (2) 展開

段階	学習活動	学習内容	具体的な手立て	資料・評価
つかむ	1 前時想起			【関】 ・二人で声を合わせて元気よく挨拶ができる。 ＊ホワイトボード ＊めあてカード ＊ 花丸シール
	2 学習内容の確認 1 めあて 2 機能を高める練習 3 母音練習 4 発音・習熟練習 5 振り返り	・動機づけをする。	つかむ ・本時のそれぞれの課題音を確認めて、意識させる。また、相手の課題音を知り、よく聞けるようにする。	
大きく・あらわす	3 めあての確認 ともだちやじぶんのはつおんをよくききながら、クイズをだしあおう。			更に意欲をもたせるために、相手のよさを見つけたら評価カードに貼るようにする ＊口のたいそうカード ＊メトロノーム ＊ お話すごろく ＊ スリーヒントカード 既成のカードを使って行うことで時間短縮を図る 【聞】 ・発音を注意深く聞き、正誤を聞き分けることができる。 【発】 ・正しい舌の動きに気をつけて課題音を発音している。 【コ】 ・視点に合った感想を話すことができる。
	4 機能を高める練習 (1) 口や舌を動かす。	・機能を高める練習をする。		
	5 母音練習 (1) 母音練習をする。 (2) 口のたいそうをする。	・正しい口形・舌位で母音練習をする。	・担当者の範唱の後、正しい口形を意識し、リズムに合わせて明瞭な発音で行わせる。	
	6 発音・習熟練習 (1) ゲームをする。	・ お話すごろく をする。	大きく・あらわす ・自分の課題音を確認し、正しい舌位で発音できるようにする。 ・誤りに気付いたら、言い直してよいことを確認する。 ・自分の課題音を確認してから読み札を読んだり、クイズを出したりして、気をつけて発音できるようにする。	
いかす	(2) クイズを出し合う。	・スリーヒントクイズをする。		
	7 振り返り (1) 学習を振り返る。 (2) 次時の確認をする。		いかす ・振り返りでは、友達の発音のよかったところやがんばり、話の聞き方のよさ、自分が気をつけたこと等を自己評価し、話すことができるようにする。	

- (3) 評価 相手の発音のよさを見つけ、振り返りで話すことができる。